

こたえ パンドラの箱

はってん
発展 ③

パンドラの箱

(ギリシャの神話)

昔、ギリシャの神々の王ゼウスは、人間をこらしめようと考え、一人の女性をつくりました。その女性はパンドラと名づけられ、一つの箱をもたされて、人間の世界へ送られました。

ゼウスはパンドラに言いました。「この箱は、決して開けてはならない。」

けれども、パンドラは、箱の中に何が入っているのか、知りたくてたまりませんでした。毎日、箱をながめては、ため息をついていました。

「ほんの少しだけなら、のぞいてもいいのではないかしら。」

とうとうある日、パンドラは、がまんできずに、箱のふたを少しだけ開けてしまいました。そのとたん、中から、病気、悲しみ、にくしみ、争いなど、ありとあらゆるわざわいが飛び出し、世界じゅうに広がってしまいました。

パンドラは、あわててふたをしめました。すると、箱のおくに、一つだけ残っているものがありました。それは、「希望」でした。

それから、人間は、どんなにつらいことがあっても、希望をもって生きていけるようになったと伝えられています。

1 パンドラをつくったのは、だれですか。

神々の王

ゼウス

2 パンドラが、箱を開けてしまったのは、どうしてですか。

箱の中に何が入っているのか、知りたくてたまらなかったから。

3 箱から飛び出したものに、入っていないものはどれですか。

ア 病気

イ 争い

ウ 希望

4 箱のおくに、一つだけ残っていたものは何ですか。

「希望」

5 この話で、さいごに希望が残ったことには、どんな意味があると考えられますか。

つらいことがあっても、人間は希望をもって生きていけるということ。

おうちの方へ

- 「パンドラの箱を開ける」は、思わぬわざわいを引き起こすことのたとえとしても使われます。